

# 神と精霊が暮らす 不思議の山

Mt. Banahaw

澤田公伸 写真



人々が安息を求めて集まるバナハウ山は、キリストと精霊と宇宙人が同居する異空間



⑥バナハウ山への険しい道なき山道



⑤幼いイエスの像を祭る教団の教祖。自称102歳



④山道の途中にキリスト像やマリア像がある



②「アンティン・アンティン」を売る土産屋



①大きな目玉のついた十戒の道標



③最近造られたバナハウの聖母像



マニラからバスとジブニーを乗り継いで3時間ほど走ると、フィリピンの霊峰、バナハウ山に続く巡礼道の出発地点、サンタルシア村に到着する。

フィリピンには、カトリックに精霊信仰を融合したフォーク・カトリシズムと呼ばれる信仰が息づいており、サンタルシア村はそのショールームのような場所だ。山頂に「聖都」があり、「神の声」が降りるといふバナハウ山に引き寄せられるように全国から民間治療師や宗教指導者が100人以上も集まって、この村で活動している。

巡礼者がまず向かうのがサンタルシアの滝だ。滝の水を浴びたり、飲んだりすると病気が治るといふ。滝近くの道沿いに軒を連ねる土産物屋では、「アンティン・アンティン」と呼ばれる首飾りを売っている。十字架や太陽、山の

形をしたものなどいろいろあるが、どれも目玉がついている。これを身につけると敵の攻撃から守られるという。有名な盗賊や20世紀初頭に活躍したフィリピン革命の指導者もこのお守りをつけていた。

巡礼道の至るところに多数の洞穴が散在し、キリストやマリアの像が置かれている。「裁判所洞穴」は、人が一人やつとくぐり抜けられる入り口を入ると、奥に広大な泉があり、この湧き水も身体に良いと訪れる人が絶えない。しかし、神の審判で洞穴から出られなくなる人もいるという摩訶不思議なところでもある。巡礼は約5時間の道のりだ。巡礼者たちは、背丈ほどもある雑草をかき分けながら険しい道を進み、母なるバナハウ山の山麓にある最終地点のキナプハヤン村に到着する。そして、村近くの小川で沐浴し、太古の森林が残るバナハウ山の豊かな自然に抱かれて心と身体を癒すのである。